（様式２）

校　種	㊫　・　中 どちらかに○	学校番号	３８	学校名	宇都宮市立国本西小学校

令和７年度　学習指導に関する取組

１　学習指導上の主な実態

（１）国・県・市の学力調査などから

・国語では，一部の領域を除いて市の平均正答率を上回っていた。漢字を正しく書く力や文脈に沿って正しく使う力，ローマ字・漢字の構成・語句の由来についての理解，事実に基づいて自分の考えを書く力，叙述を基に段落相互の関係を捉える力に課題が見られた。

・社会や理科では，一部の領域を除いて市の平均正答率を上回っていた。基礎的な知識の定着は個人差が大きい。電気の働きについての理解に課題が見られた。

・算数では，学年差，個人差が大きく見られたが，市の平均正答率を上回る領域が多かった。小数や分数，重さや長さ，割合についての理解，計算に関して成り立つ性質を活用する力に課題が見られた。

（２）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

・学習や生活に関する多くの質問で，肯定的割合は市の平均より上回っている。

・学年により若干の差はあるものの，各教科等の学習が好きと回答した児童の割合は，ほとんどの教科において市の平均を上回っており，学習への意欲の高さがうかがえる。

・学習への取組については，「学習に対して，自分から進んで取り組んでいる」の設問でほとんどの学年において市の平均を上回っているが，家庭学習の取組状況や内容については個人差があり課題が見られる。

（３）授業等への取組状況から

・学習への取組は，どの学年も前向きである。教師や友達の話を聞く態度や，授業で習ったことをノートに分かりやすくまとめることなど基本的な学習態度が身に付いている。しかし，相手を意識しながら適切な言語で伝え合うことについては課題が見られる。

２　今年度の重点目標

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善と，豊かな言語能力を身に付けた児童の育成

３　今年度の取組（「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，「令和７年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（１）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善

★○研修や学年会で，児童の学習の実態を伝え合ったり，全国・県・市の学習状況の結果を分析・把握したりして，課題設定や目標の焦点化につなげていく。

★□○「宇都宮モデル」を活用し，単元（題材）を通した授業の構想，問いを通した学習の方向性の共有，学習の流れが見える板書，言語活動を充実させるコーディネート等を実践する。（通年）

★□○国語科，算数科を中心とした少人数指導及び習熟度別学習による指導，デジタル機器や図書等を活用した授業並びに家庭学習の充実を通して，学習内容の確実な理解と定着を図る。（通年）

★□○児童が各教科等における見方や考え方を働かせ課題解決に取り組めるよう，教材との出合わせ方，個での追究活動，他との交流活動，まとめ・振り返り等を工夫する。（通年）

★□○教師が事前に児童の活動の様子や言動を想定して授業に臨み，学びの姿を的確に捉えてコーディネートをすることにより，児童が多様な考えに触れ，相互に関連付けたり，共通点や相違点を見いだしたりすることができるように努める。（通年）

★□活動の目的や手順を示したり，児童の長所や経験を生かした追究方法を選択させたりする等，特別支援教育の視点を取り入れ，「困難さに応じた指導」はもとより，「よさを伸ばす指導」の充実を図る。

★学習のねらいや，個のつまずきに応じた学習活動の充実，小学校学力向上担当教員との綿密な連携を図る。（通年）

★□「宮・未来キャリアパスポート」を活用し，学期や行事の目標，具体的な取組，振り返り等を記入することで，児童が自分を理解し，管理する力や将来を設計する力を育成する。（通年）

★□各教科等のねらいを踏まえた「リアル」と「デジタル」がベストミックスされた学習活動を実現できるよ

う，「デジタルでリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち，1人1台端末をはじめとしたICT機器を積極的に活用する。そのための研修を充実させ，ICT活用指導力の向上を図る。（通年）
★義務教育９年間を見据えた効果的な学習環境の構築を目指し，高学年を中心に教科担任制を実施して，児童の学力向上及び教員の指導力向上に努める。（通年）
★○授業中の学習態度を発達段階に応じて着実に育成するため，「学習の約束」を活用し，共通理解に基づく系統的な指導の充実を図る。（通年）
○「さわやかタイム」における朝の学習では，読解ドリルに継続的に取り組み，読解力の向上，語彙力の強化を図る（通年）

（２）豊かな言語能力を身に付けた児童の育成のための学習指導の工夫・改善
★□○互いの意見を交流し，学び合いながら考えたことを表現し合える学級集団を育成する。（通年）
★□○自ら立てた見通しに対する振り返りを文章で書かせる活動を計画的に実施し，学習の成果を，次の単元，学年，他教科等の学びや生活の改善につなげていくことのできる「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。（通年）
★□言語能力や情報活用能力，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を目指し，教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり，各教科における指導との関連付けを図ったりする。（通年）
★□言語能力の育成をするため，情報を理解する過程と文章や発話により表現する過程に応じた学びと，精査・解釈したり考えを形成したりするなどしてよりよい表現を生み出す学びを，デジタルを効果的に活用しながら一体的に充実させる。（通年）
★□○多様な人々と互いのよさを生かしながら，意見交換したり，議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり，自分の考えをより妥当なものとしたりしようとする態度を育成する。（通年）

（３）家庭学習の充実
★「家庭学習の手引き」を用い，学び方の具体的な提示，アドバイス等を「学べ！国西っ子」の合言葉で紹介し，児童が主体的に家庭学習に取り組めるよう工夫する。（通年）
★学校全体で共通理解を図りながら，現在学習している内容に関連のあるものや季節等に応じた取組を学年に応じて行うよう支援する。（通年）
○発達段階に応じ，テーマ作文や絵日記，端末を使った写真日記や観察記録等を課し，自分の考えや意見を相手に分かりやすく表現する能力や態度を育成する。また，「書くことキャンペーン」に積極的に取り組む。（通年）

（４）読書活動の推進
★○発達段階に応じた読書指導を実践し，読書活動を通した語彙力の強化を図る。（通年）
★「朝の読書」の時間や読み聞かせボランティア及び教師による読み聞かせ（担任による読み聞かせ，７学年による読み聞かせ，担任シャフル読み聞かせ）の実施により，読書活動の充実を図る。（週１回）
★校内読書月間で，家族読書，お話給食，ボランティアによる読み聞かせスペシャル，しおりコンテスト，図書委員の仕事体験等を実施する。（年２回）
★自主的，自発的な活動としての図書委員による読み聞かせや集会活動を実施することで，読書活動を多様に展開する。（年２回）
★学校図書館司書による読書カルテ（児童一人一人の読書傾向と推薦図書を記載したもの），ブックトークや校内推薦図書の選定及び紹介を通して，読書の幅を広げる指導の充実を図る。（通年）
★学校図書館の「読書センター」，「学習・情報センター」としての利活用及び各教科等の関連図書の充実と活用，学校図書館司書による授業支援の推進を図る。（通年）

（５）家庭・地域・企業との連携・協力
★○生命の有限性や自然の大切さ，主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性を実感しながら理解することができるよう，各教科等の特質に応じた体験活動を重視し，家庭や地域協議会をはじめとした地域や地元企業と連携して，体系的・継続的に実施できるよう工夫する。（通年）
★「宗円獅子舞」をはじめとする地域の教育資源や資料等を活用し，伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動や，郷土の歴史，文化，伝統，産業，風土等について理解する学習を通して，郷土への愛情と誇りを育む。（通年）
★学習の取組状況や全国・県・市の学習状況の結果，家庭学習の参考例等を学校だより，学年だより，学校ＨＰ，学級懇談会資料等で積極的に公開し，保護者の理解と協力を得るようにする。（通年）